

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

2年間を振り返って

通信教育部社会福祉学科卒業生 三浦 千早

はじめに

2018年4月、かねてより希望していた社会福祉学を学ぶため、通信教育部の門を叩きました。介護予防と教育支援のダブルワークを続けるなかで、色々と思うところがあり、福祉の学びに解決の糸口があるのではと考え、入学を決めました。

最短の卒業と国試受験を目指し、3年次へ編入しました。「2年で卒業と国家試験を目指すのは本当に大変です。“必ずや!”という強い意志で臨んでください」と先生が仰った通りの、厳しい2年間でした。仲間は「合格よりも実習を乗り越えたこと、卒業できたことが嬉しいね」と言いますが、本当にその通りだと思います。

このたび、体験談を寄稿することになりました。通信教育部生は、修業年数や卒業時期、経験値など一人ひとり状況が異なります。参考になるか全く自信がありませんが、最後のレポートと心得て、“3年次編入・実習あり”の視点から、「実習のこと」「通信教育部での学習全般」「国家試験への取り組み」の3点について、振り返りたいと思います。

社会福祉士相談援助実習で心がけた点

地域包括支援センターにて実習させていただきました。実習の大目標は、社会福祉士が、保健師や主任介護支援専門員の3職種とどのように連携し、どのような視点や専門性をもって介護予防に取り組んでいるのかを理解することでした。多くの現場に同行し、地域住民への関わり方や、専

門機関との連携について学ばせていただきました。複雑多様な地域課題や、対応にあたる職員の方々の奔走を目の当たりにし、現場を肌で感じる機会となりました。

私が実習で心がけた点は、「実習計画書」であげた目標の自己点検を続けることでした。具体的には、10個の小目標から、最大2つを日々の目標に定め、それぞれの「達成できた点」と「達成できなかった点」を「実習記録」にて明確にする作業です。

気をつける点は、他者ではなく、自己を評価することです。「達成できなかった点」は、翌日の課題とします。この作業は、巡回指導に来られた先生の助言を受けて実践したのですが、見事にスランプから脱却し、実習を乗り越えることができました。

また朝礼では、「本日の目標を宣言する（注意：本日の予定ではなく）」という日課をいただきました。目標は前日と同じでもよいのですが、重要なことは、小さな変化であっても常に自分をモニタリングできているかどうかです。この経験は、現在の仕事においても十分に活かされていると思います。

通信教育部での学習全般で大切にしたこと

一つめは、レポートの活用です。「WEB客観式レポート」は、スクリーニング前日か、初日を終えるまでに、100点になるまで繰り返し解きました。“脳は全体像を把握してから細部を理解する”と言いますし、“丸暗記は初歩の理解”とも言います。事前に重要な知識を入れておくことで、授業の要点をキャッチできるようになりました。

また「論述式レポート」では、共通項のある科目は、同時期に書き上げていきました。実際、4年次になっても未履修科目が多くあり、レポートと同時並行で実習や国試の勉強をこなさなければなりません。少なくとも

卒業までに32本のレポート提出が必要です。丁寧な内容把握を意識しながらも、効率よくレポートを書き進めていきました。

二つめは、新聞やメディア、SNSの活用です。様々な社会問題や生活課題は、教科書からは想像しづらいものです。NHKの『ハートネットTV』や『バリバラ』を視聴したり、新聞の読者投稿欄を読んだりして、当事者や課題の理解に努めました。

国家試験への取り組み

2年先のゴールを想像した時に、“国試受験は難しい”と感じました。20代の頃のような体力は無く、仕事から帰宅し、全てを終えて机に向かうともはや再起不能です。そこで、睡眠時間を削らずに、早朝、通勤中、昼休みのスキマ時間の勉強に切り替えたところ、思いのほか集中できるようになりました。

昼休みには、携帯アプリから中央法規『けあサポ』の「今日の一問一答」を解きました。これだけは何があっても休まずに、5月から試験直前まで続けました。本格的に試験勉強を始めたのは、卒業試験後の11月末からでしたが、睡眠時間は削らずに、朝の40分で過去問を解いていきました。12月からは、通勤中や家事をしながら、YouTubeで「ほいくん」の受験講座を聞き流し（慣れたら倍速モードで！）、暗記科目を克服していきました。近年の教育媒体に純粋に感動しましたし、楽しく取り組むことができました。

学校の「模擬小テスト」は、6回全て提出しました。7割得点を目指すというよりも、解答時間の把握やマーキングのスキルアップに活用しました。10月下旬のソ教連の全国模試も、本番に耐えうる気力や体力を確認でき、戦略を見直す良い機会になりました。1月に入ってからのは、過去問や模擬試験を使い、本番と全く同じ時間帯で3回行いました。

基本的には、先生や先輩から伺った方法を参考に、良さそうなものは試し、それぞれの強みを見つけて、自分の生活に合わせてアップデートしていました。なお、参考書は10年分の問題が見渡せる、メディックメディアの『レビューブック』を使用しました。

終わりに

国家試験を終えた頃には、『社会福祉用語辞典』に書かれている内容を、一度は見たことがある、または、おおよそ理解できるまでになっていました。

スクーリングや演習に参加するうち、学習全般や実習、国家試験に向けて励まし合う仲間が増えていきました。様々な考え方や視点に触れ、自己覚知が進んでゆきました。

先生方、事務局の皆様の叱咤激励には、幾度も救われました。「2年間は厳しい」と連呼しましたが、振り返れば、多くの方に支えられた温かい2年間でした。

ただ一つ後悔していることがあるとすれば、学習を急ぎすぎたことです。知りたいことはまだ沢山あり、実践を繰り返しながら、ゆっくり学び深めていくことが私の目標です。

